



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ
2020～2021 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「集う」



◆会長 村瀬 祐治 ◆幹事 岡崎 壮男 ◆会報委員長 岩本 正樹 ◆会報担当 今井 哲也

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1ー2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1265 回	57 名	56 名	46 名	—	82.14%
前々回 1263 回	58 名	57 名	45 名	4 名	85.96%

- 点 鐘
- ロータリーソング 奉仕の理想
- 高山中央ロータリークラブ職業倫理基準
- ゲスト・ビジターの紹介

●会長の時間 会長 村瀬 祐治

ロータリーの会合は、点鐘で始まり、点鐘で終わる。例会だけではなく、地区大会、地区協議会、I M等ロータリーの会合はすべて同じです。なぜ点鐘か？については誰も疑念を差し挟まないようですが、どうも点鐘は日本独特のもののようにです。外国では点鐘の代わりに“Call to Order”つまり「お静かに願います」、「開会を宣言する」の発言があって例会が始まり、あるいは発言に続くお祈りの後、例会に入るといふケースが多いようです。鐘を鳴らす場合も、食事が済んで幹事報告やスピーチが始まる前に鳴らすのが一般的で、木槌（きづち）を叩くこともあるようです。いずれにせよ、開会閉会を鐘で告げるのは日本だけのようです。

ではこの鐘、いつ何処で？というところまったく分かりません。一説によると 1920 年頃東京クラブが使ったのが始まりで、あとは右にならえになったのではないかとされています。日本人は大体、小学校などで手振り真鍮鐘で行動することに慣らされているので案外ロータリーの点鐘もケジメを付ける意味で日本人の習性にピッタリなのかもしれません。

【連絡事項】①4 月 12 日元米山記念奨学生メイ・スイートさん博士学位取得の応援募金に協力頂きありがとうございました。②本日テーブルに配布しました国際ロータリー会長ホルガー、クナーク会長の新型コロナウイルスワクチンについてクラブメンバーに宛てたメッセージです。前例会にお伝えしましたので一読してください。③次回 4 月 26 日創立 30 周年記念例会は昼例会ですので本日よりと同じ時間にお集まりください。

●幹事報告 幹事 岡崎 壮男

◎ロータリー米山記念奨学会より

・ハイライト米山 253

<会報>

・下呂 RC

*元米山記念奨学生メイ・スイートさんへの奨学募金が 48,520 円集まりましたので、高山西 RC へお渡ししました。

●本日のプログラム

出席/プログラム委員会 委員長 内田 茂

本日は、2021 年地区研修・協議会報告として、次期会長 大原 誠さん、次期研修リーダー 高原 清人さん、次期社会奉仕委員長 田中 雅昭さん、次期青少年奉仕委員長 高橋 厚生さんにお話しいただきます。



《地区研修・協議会報告》

会長エレクト 大原 誠



昨日 4 月 18 日に 2021 年地区研修・協議会に出席したので、その概要につき報告します。今回は新型コロナウイルス感染防止によりオンライン (Zoom) での開催となり、当クラブではコンベンション協会

3 階の会議室にて研修会場を準備し、下記の次期役員・委員長・新会員が出席しました。出席者：植木・大保木・熊崎・田中・足立・前越・高原・久々野・岩垣津・伊藤・西・葛西・住・下田・大原 計 15 名。浦田ガバナーエレクトの点鐘に始まり、開会セッション・第 1 セッション・閉会セッションの 3 部

構成によるプログラムに従って進められました。閉会セッションにおいては、釧田ガバナーより RI と地区の現況についての報告があり、次いで第 1 セッションにおいては、次期 RI テーマについて RI 会長エレクトのシェカール・メータ氏による講演のビデオ紹介の後、浦田ガバナーエレクトより、地区活動方針「つねに超我の奉仕を胸に」と以下の地区目標について説明がありました。

1. RI 会長テーマ「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」を強調推進し、「超我の奉仕」を理解し実践する。
2. 重要課題として RI 戦略計画を推進
3. 会員増強・会員維持・クラブ拡大
4. RI ロータリー賞への積極的なチャレンジ
5. 青少年育成の推進
6. ロータリー財団補助金の積極的活用と寄附への理解・推進
7. 米山奨学事業への参加と支援
8. 例会はロータリー運動を支えるものと考え、有意義な例会開催を行い、積極的な出席を促す。

次に第 2630 地区の戦略計画の最重要目標として以下の 4 項目を挙げた。

1. 会員維持・増強とクラブの基盤強化を推進。
2. ロータリーの職業奉仕の理念を考える。
3. ロータリー財団への寄附を奨励
4. 公益財団法人米山奨学会の事業を支援推進。

最後に 2021-22 年度地区戦略計画の優先事項として以下の通り述べた。

1. 「より大きなインパクトをもたらす」の目標
2. 「参加者の基盤を広げる」の目標
3. 「参加者の積極的なかわりを促す」の目標
4. 「適応力を高める」の目標

閉会セッションでは、釧田ガバナーより次期開催地ホストクラブ発表があり、次期同会長の石井亮一岐阜 RC 会長エレクト挨拶、辻正敏地区研修リーダーの総評、最後に玉木義裕次期地区代表幹事の閉会挨拶があり PM2:20 終了しました。当日は不肖私の 66 回目の誕生日でもあり、意義深い 1 日となりました。

次期社会奉仕委員長 田中 雅昭



皆様こんにちは。昨日のズーム会議での感想を述べさせていただきます。次年度 RI 会長のシェカール・メータ氏のビデオを拝聴しました。『奉仕しようみんなの人生を豊かにするために』

これからの 17 ヶ月をどう行動するかにかかっています。

1. 会員数 120 万人から 130 万人への増強計画です。「夢は大きく」17 ヶ月の間にロータリアン一人がたった一人を入会させるよう努力する事。

2. 「もっと行動し」はインパクトをもたらす奉仕プロジェクトであり、「もっと成長する」は会員を増やし、参加者基盤を広げる事だそうです。

3. ロータリアンが奉仕し続けるのは、人々の人生を豊かにしたいと言う思いと、そこには奉仕のニーズがあるからこそ、援助できるのだそうです。奉仕するときは誰かの人生だけではなく、自分の人生も豊かになります「誰かの為に生きてこそ、人生には価値がある」アインシュタイン

次に次年度ガバナー浦田幸一様の地区方針を聞かせて頂きました。地区方針は「つねに超我の奉仕を胸に」です。ロータリーが根付いて 100 年、今なお日本らしい「利他の精神」活動は今後も続けなければならないと言われました。そして地区目標 8 項目、地区戦略計画の目的と目標が示されました。やはりロータリー賞は次年度も、皆さんと共に挑戦しなければならないと思います。

DVD による分科会（自宅）

奉仕プロジェクト部門次期委員長の篠原様より【ロータリアンの「愛」を人々と地域の為に】と題してお話があり、その後次期社会奉仕委員長の石田公司様から、「ロータリー奉仕デーに、他団体の参加者の積極的にかかわりを促すよう各クラブに勧める」に基づき、社会奉仕は地域社会に軸足をと題して説明がありました。主に地区補助金を活用したプロジェクト事例を説明して頂きました。次年度も当クラブに於いてもすでに地区補助金プロジェクトを活用した事業を計画中です。

最後に次期国際奉仕委員長の勝川生年様から、W.C.S（世界社会奉仕）補助金についての説明があり、フィリピンへフェイスシールド贈呈事業、コートジボワールの子供たちへ靴・文房具贈呈事業、インドネシアバリ島へ水環境支援事業の事例説明がありました。又グローバル補助金事業として共同プロジェクト（名張中央、美濃加茂、熊野、尾鷲、多治見西各 RC）として基本的教育と識字率向上プロジェクト（約 500 万）と、母子の健康プロジェクト（約 750 万）として多治見リバーサイドクラブの事例説明がありました。以上の内容は ZOOM 会議と DVD を拝聴した内容です。今後このような Web 会議は多くなると思いますが、釧田ガバナーが言われましたが、「Face to Face でなければ、本来の意見は出ないし質問もしにくく成るのかな」と言われ自身も考えさせられました。さて昨日は次年度会長の原大さんの計らいで、美味しいチーズケーキとプリンにて誕生日を兼ねて反省会をして戴き、おまけにスーパーニッカまで頂き誠にありがとうございました。自分としては、早く以前の様な、団体で移動し車中での楽しい会話ができる日を待ち望んでいます。

次期青少年奉仕委員長 高橋 厚生



今回の地区研修・協議会へは、高山中央ロータリークラブ次期青少年奉仕委員長としてだけでなく、次期国際ロータリー2630 地区青少年奉仕委員会委員としても参加させていただきました。地区の青少年奉仕委員会については今期も担当させていただいておりましたので、二期目となりますが、コロナ禍であり活動もなかなか出来ておらず、委員としての実感があまり無い状況です。

さて、今回の地区研修・協議会の報告ですが、私に与えられた次期委員会内容を中心にご報告させていただきます。昨日の伊勢中央 RC 蒲田ガバナーエレクトは、地区方針である「つねに超私の奉仕を胸に」の内容・思いを中心に話されましたが、それらについては他の皆様からご報告があったかと思しますので、配布されました地区方針の青少年育成の推進の部分についてご報告します。青少年育成の推進としては、2つの地区目標をたてられました。

- ① インターアクト、ローターアクト、青少年奉仕、青少年交換、への支援及び協力の強化
 - ② 将来のヤングロータリアンとしてのローターアクトとの交流を深め、委員会会合、奉仕活動等に参加してもらい、活動への理解をしてもらうの2点です。具体的な高山中央 RC としての活動としては、・下呂 RC との協働スポンサーである益田清風高校インターアクトクラブへの協力
- ・ 出前講座を通じた社会人、職業人としての青少年奉仕活動等があげられると思います。

青少年奉仕活動は、2021-22 年度 地区戦略計画の優先事項3にあるように「参加者の積極的なかわり」が必要な活動となります。私自身も「積極的なかわり」ができるよう努力するとともに皆様の「積極的なかわり」をよろしくお願いいたします。

次期研修委員長 高原 清人



初めてのリモート会議と言うことで、不安と期待を胸に参加させていただきました。本日のスピーカーの多くは重複すると思いますので、私はシェカール・メータ会長エレクトの講演の一部を引用

させていただきます報告としたいと思います。かつてイギリスの劇作家バーナード・ショーは「ロータリーはどこへ行く一昼飯を食べに行く」と、ロータリークラブの活動が例会と言う名の昼食会を繰り返しているだけだと批判していました。1930 年頃のことです。本年(次年度?) シェカー

ル・メータ氏は、インスピレーションを受けた言葉の一つとして、このバーナード・ショーの次の言葉を挙げています。それは、「存在するものだけを見て「なぜそうなのか」と考える人もいる。しかし私はいまだかつて存在しないものを夢見て『なぜそうではないのか』と考える。」彼の夢は 2022 年 7 月 1 日までに会員数を 130 万人に増やすことだと語っておられます。この 17 年間世界のロータリアンは 120 万人のまま横ばい状態であります。このような危機的な状況の打開策として、シェカール・メータ氏は「each one, bring one」つまり各ロータリアンが新会員を 1 人入会させるよう、地区に、クラブをお願いしておられます。(他力本願的でもありますが) 全クラブのロータリアンがこれを実行すれば、そのそれぞれが「変革者」となり、新たにロータリアンとなる人の人生を永遠に変えることとなると結んでおられます。このように会員増強は RI にとって重要課題であると言えます。特にアメリカでの老舗クラブが消えていくといった現状もあるようです。日本に目を転じますと、25 年前から会員は減少し各クラブで増強の努力がなされている結果、ようやく増加傾向にあるようです。一方で「クラブがレベルダウンしている」「往年の輝きが失われている」「ロータリーのことを知らない会員が増えた」等の課題が見えてきております。このような課題に取り組むべく、私が拝命した研修委員会では「会員への情報提供」、「新会員の皆さんへの研修」、「奉仕の理念、職業奉仕の理念の浸透」、または例会をより充実させるようなプログラム等を目指し、クラブを縁の下から支える役割を果たしていきたいと考えております。どうか会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

「2021 年度地区研修・協議会」オンライン(Zoom)による開催



<ニコニコBOX>

昨日、いい事がありましたのでニコニコへ。

今井 哲也

昨日の地区研修協議会参加の皆様、お疲れ様でした。

植木 慎吾

本日早退します。お願いします。

西倉 良介